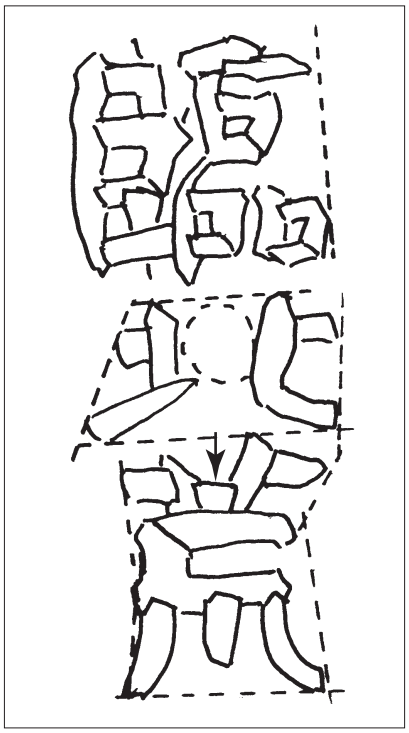
高橋香樹会長担当　半紙臨書課題

（11月22日締切）出品料440円

裴将軍詩・顔真卿（がんしんけい）

第三回

1、字句＝臨北荒



2、**形式**＝半紙タテ使用。中央に「臨北荒」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と書き入れる。

3、**概観**＝「季刊墨スペシャル第五号顔真卿」で、書莚会元会長の平岡篤頼先生のインタビュー記事を見つけたので、三回に分けて抜粋掲載します。

「たとえば「大」という字。第二画をどちらかというと左に寄せる。それで右ハネよりも左ハネの方が強く、太くなる。顔真卿はとくにそうですけど「大」にしても「天」にしてもそうだ。そうすると逆にバランスがよくなる。（中略）…書が芸術になるのは、「木」を二つ書くと「林」になるといった合理性が根本にありながら、それをずらすところに成立する。そこが重要なんですね」

4、**各字のポイント**

臨　楷書的表現ながら、偏の縦画の方向の変化。それに比べて旁では同じ運筆の連続。

北　◌は広く余白をとる。左右対称的な表現。

荒　やや隷書的な作。判読しにくいが、↓に点を入れる。

一字書課題

（十一月二十二日締切）

球

(1)書体自由　(2)半紙タテ

(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4)出品料　四四〇円

(5)バーコード券の余白に「**一字書**」と記入

条幅随意参考

威聲雄震雷

（芸術新聞社）

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「**条臨**」と記入。

条幅部漢字課題参考　（十一月二十二日締切）

A

高橋香樹会長書

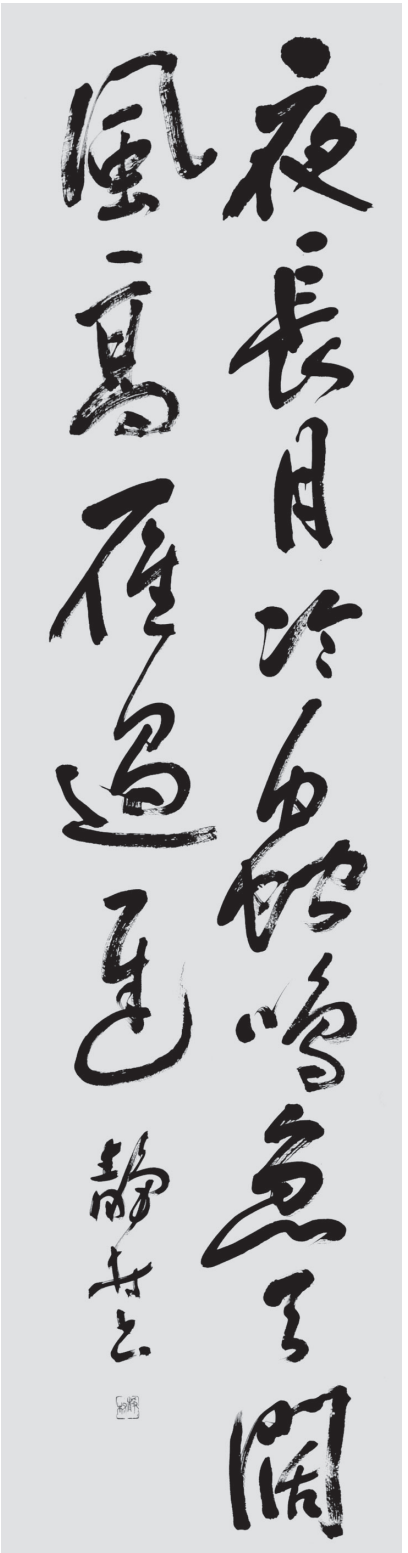
夜長月冷蟲鳴急　天闊風高雁過遅（丁世昌）

夜長く月冷ややかにして虫鳴くこと急に、天闊（ひろ）く風高うして雁（かり）過ぎること遅し。

私は、注意しないと線が均質になりやすい。そこで、強弱を意識的に取り入れたつもりだが、まだ足りないか。一行目の前半は縦長の文字となるため、少し左に移動するような動きとし、後半は逆に右への流れとする。また、左右の行で文字が横に並ぶことが多いので注意したい。「**闊**」は、サンズイを外に出す形多い。墨継ぎは「**鳴**」と「**雁**」。

B

鈴木静村先生書



長　一画目は四画目横画を突き抜けも可。末画から**月**へ向け脈絡。**蟲**　古典には第一画の短斜画を加えたものが多い。虫字の縦画に変化の工夫を。今までに多く使った草体。**急**　墨継ぎ。下辺の波にも変化。**闊**　門構えの縦画に少々変化の工夫を。**風・高**　渇筆部分、急がず喰い込ませて運筆。**雁**　墨継ぎ。**過**と連綿、この連綿線はスッキリ。

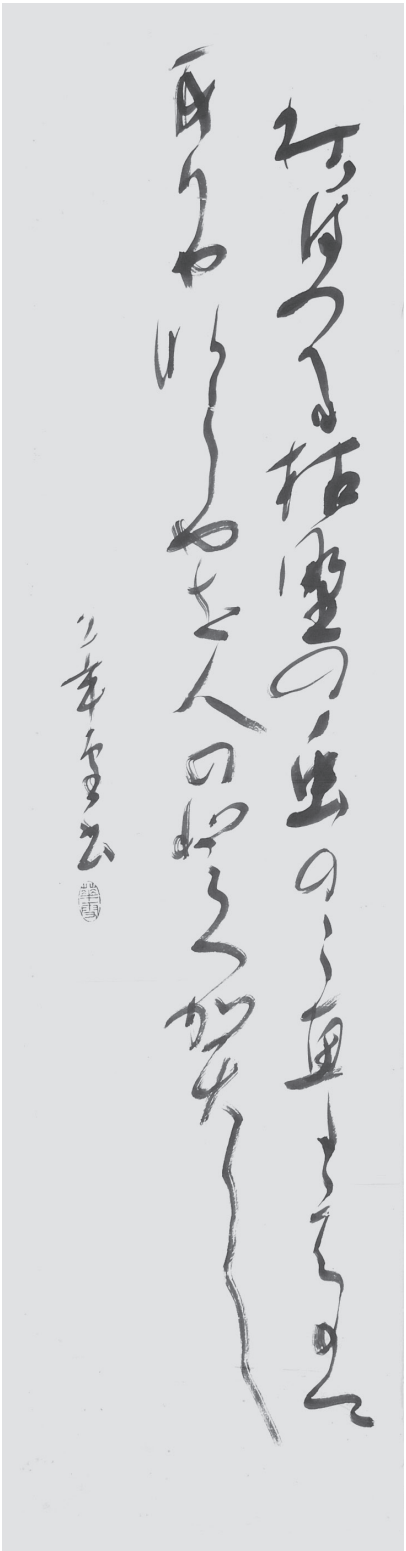
訳…秋の夜長、冷たい月の光のもと虫が盛んに鳴き、広い空を雁が高くゆっくりと飛んでゆく。

予告（十二月二十二日締切）　**閉収亂帙思疑義　一穂青燈萬古心（菅茶山）**

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（十一月二十二日締切）

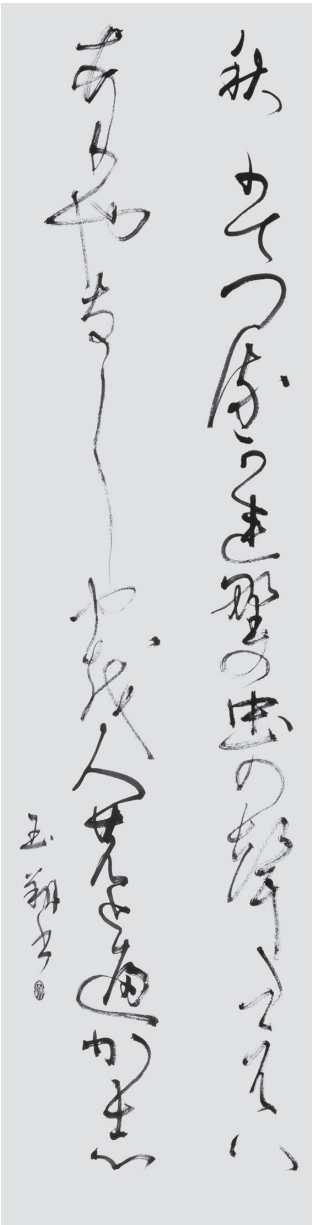
A



平岡華雪先生書

秋はつる枯野の虫の聲たえばありやなしやを人のとへかし（千載和歌集　藤原基俊）
秋はつる枯野の虫のこ恵多え盤ありや那しやを人の登へ賀し

B



福田玉翔先生書

秋盤つ流可連野の虫の聲多え八あ利や奈しや越人農と遍か志

「千載和歌集」は勅撰和歌集の一つ。「詞花集」の後、「新古今集」の前に位置し、八代集の第七である。

作者は**藤原基俊**。歌合では作者のほか、多くの判者もつとめ、源俊頼とともに院政期の歌壇の指導者として活躍した。漢詩文にも通じ「新撰朗詠集」を撰集している。書家としても名があり現存する書跡に「多賀切和漢朗詠集」「山名切新撰朗詠集」がある。俊頼や俊成よりも歌心にやさしさがあると言われている。

学び方

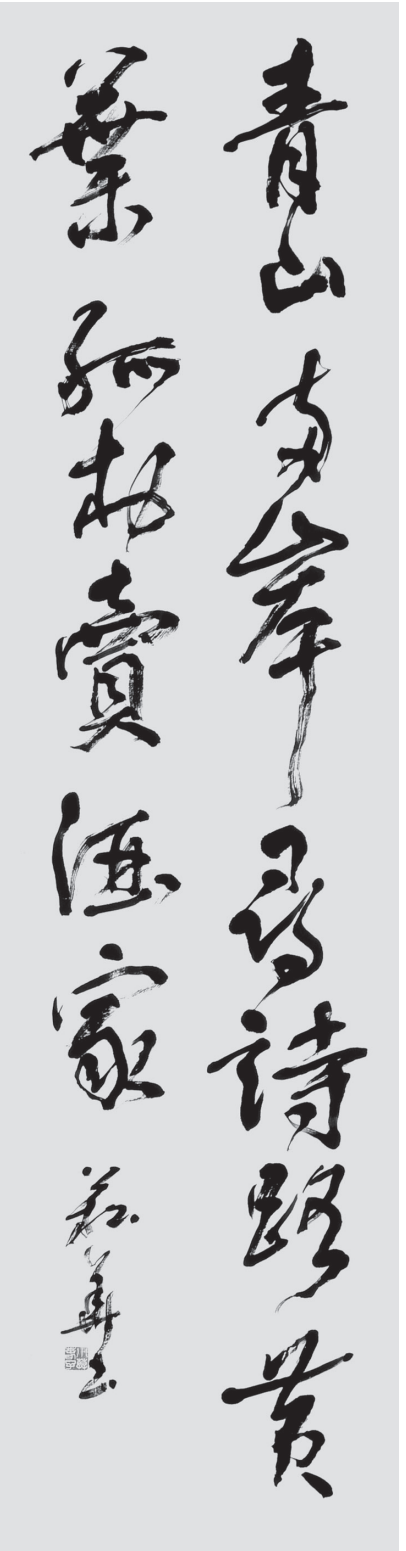
今月も半切二行書きの原則的な墨継ぎで、二行目中間より少し下のところで一回墨継ぎをしてまとめました。筆が小さめですと二行目中間まで墨が持たない場合がありますが、その時は冒頭の二字目・三字目で墨がまだ十分あるうちに墨を足して補充しておきます。そうすると二行目中間で自然な渇筆が出せます。二行目の「し」を効果的に伸ばして全体のスッキリ感を求めました。何枚も書き込んで行くと文字が大きくなりがちですが、余白の白と墨の黒のバランスが作品の印象を大きく左右します。潤筆と渇筆の妙を楽しむ作品を工夫してみてください。

予告（十二月二十二日締切）　**たづね来む人たれならむわが室に深くさしたる冬の日のかげ（古泉千樫）**

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部随意参考

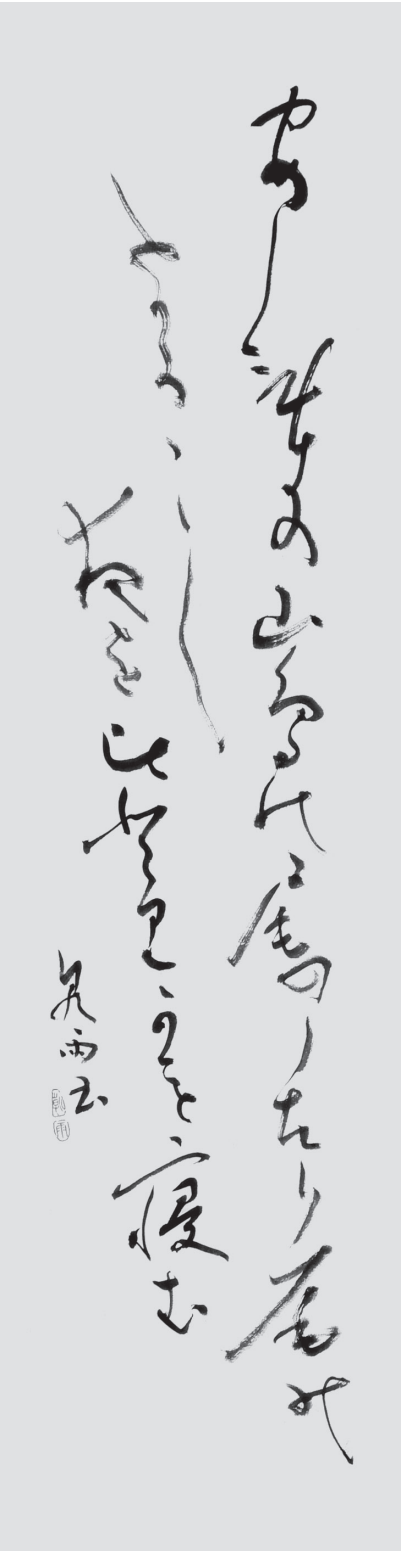
小暮菘華先生書



青山兩岸尋詩路　黄葉孤村賣酒家（王時憲）
青山両岸詩を尋ぬるの路、黄葉孤村酒を売る家。

訳…川の左右にそばだつ青山はここぞ詩を尋ぬるべき路であり、もみじする人里遠き村の酒売る家に一酔するもよい。

槍田朝雨先生書



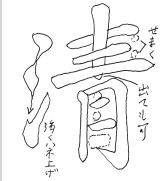
あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む（百人一首　柿本人麻呂）
安し飛支の山鳥能尾のしたり尾能奈可〻〻し夜を比登里可毛寝む

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

漢字部課題参考　（十一月二十二日締切）

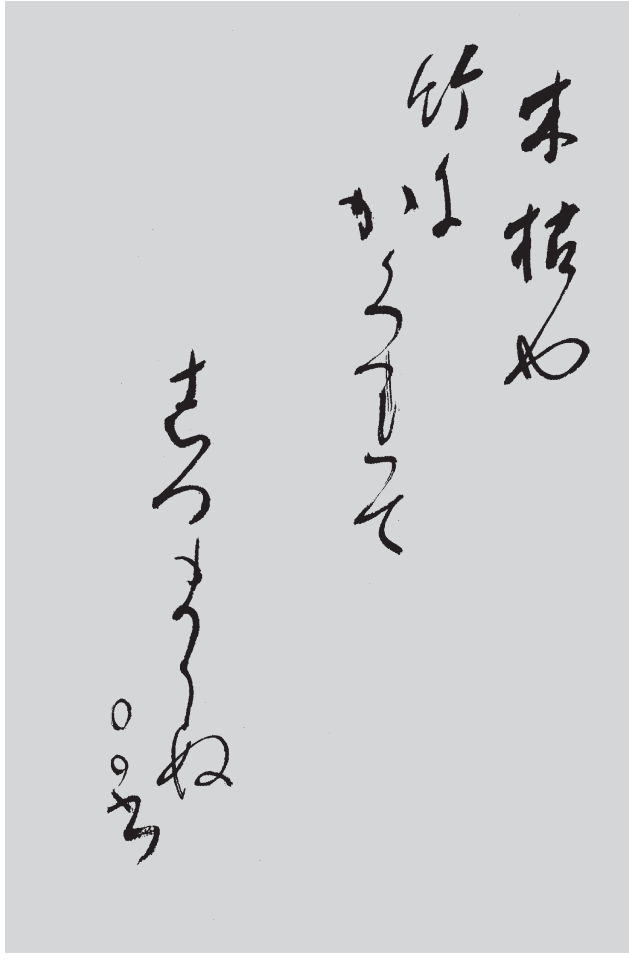
平岡華雪先生書
天清く暁露涼し（薩都剌）
訳…秋天澄み暁の露は涼しい。

「清・涼」の〝さんずい〟、多少の変化をつけて。字典を参考にして下さい。



（十二月二十二日締切）　巖雪夜窓明（許渾）

かな部課題参考　（十一月二十二日締切）



平岡華雪先生書
木枯や竹にかくれてしづまりぬ（芭蕉）
木枯や竹尓（に）か久連（くれ）て志（し）つまりぬ

〈連綿について〉
基礎連綿への効果的な課題。「枯や」「久連て」「志つ」「まりぬ」熟習し、軽快にリズム良く書いて下さい。

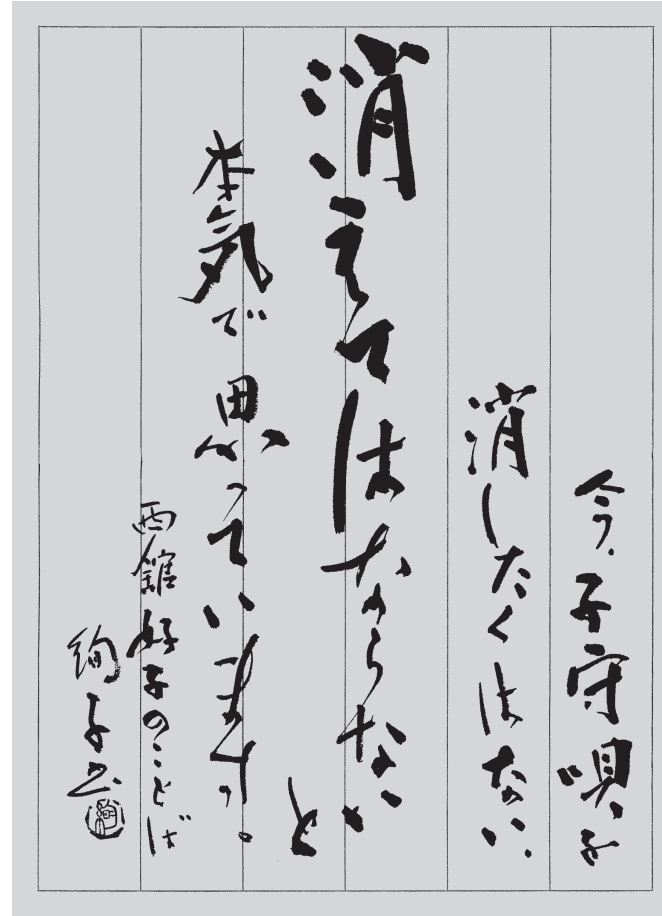
この受け筆、大切

（十二月二十二日締切）　うしろより月のあがりし枯野かな（文臺城）

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。
①出品部門（例：「漢字部」「かな部」）　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢字かな交じりの書課題参考（十一月二十二日締切）

宮　絢子先生書



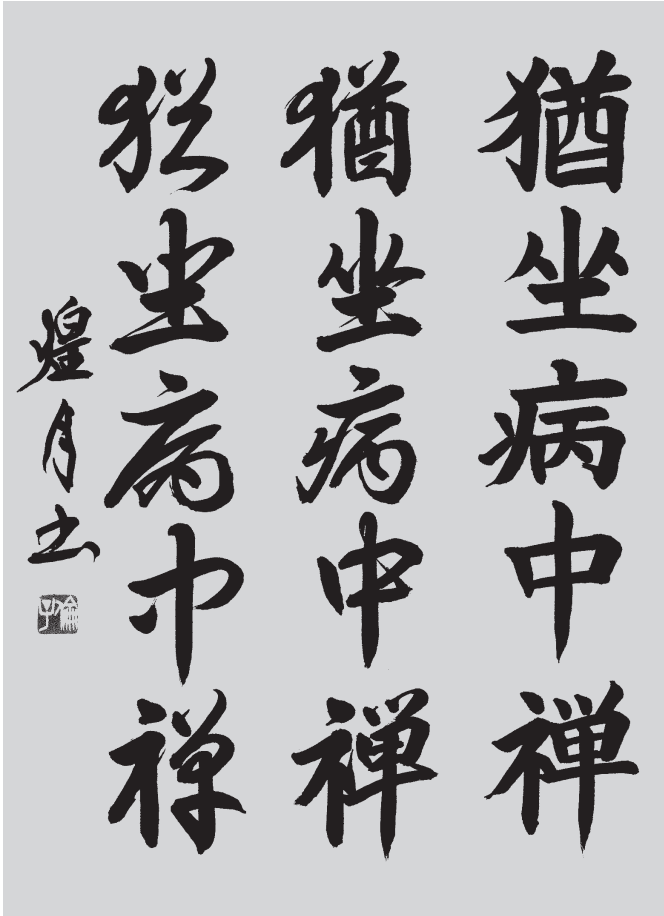
今、子守唄を消したくはない。
消えてはならないと本気で思っています。
（『日本の子守唄』（ユニコ舎刊）西舘好子）

五月号の課題参考の続きです。二十年もの歳月を費して日本国中を尋ね歩いた西舘好子さんの言葉です。このライフワークを『日本の子守唄』と題する本にまとめておこうとした西舘さんの原点は、今回の文の中にあると思います。作者の思いと読者（私）の感動や納得の重なり合うところを、強調してみました。

(1)出品料550円　(2)バーコード券余白に「**漢か**」と記入

楷、行、草、三体課題参考（十一月二十二日締切）

町田煌月先生書



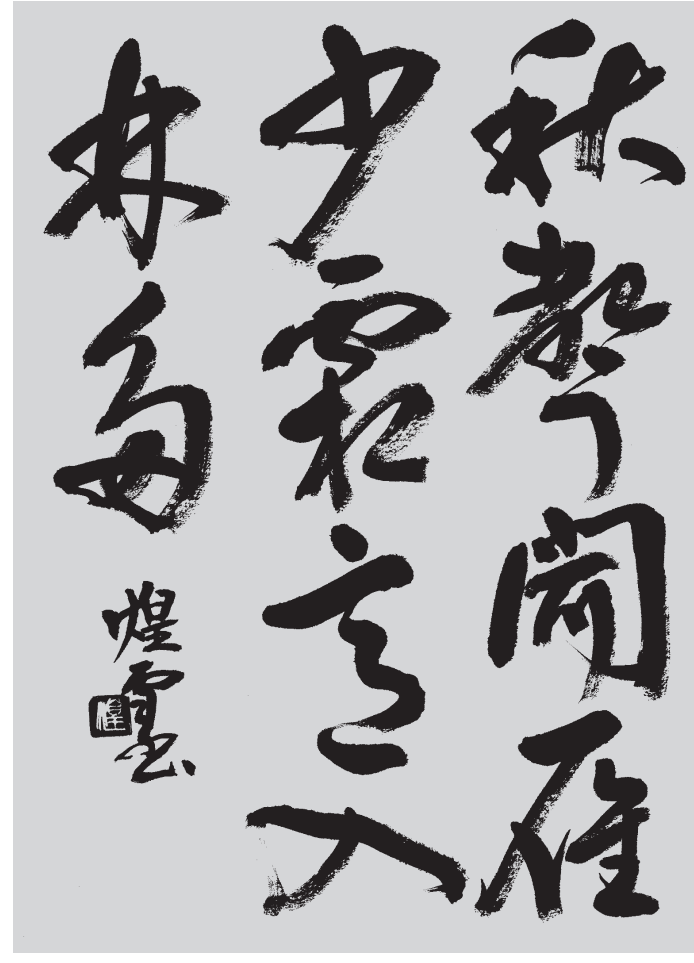
猶坐病中禪（項斯）　猶お病中の禅に坐す。

訳…あなたは病中もなお座禅をつづけておられる。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

随意部参考

星野煌雪先生書

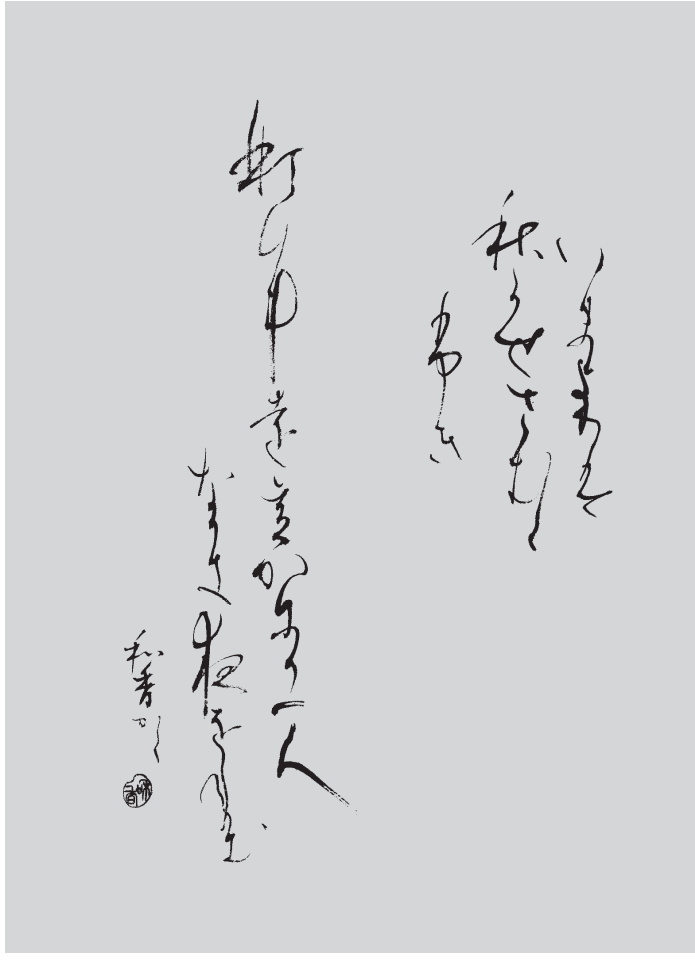


秋聲聞雁少霜意入林多（倪嘉善）
秋声雁を聞く少に、霜意林に入る多し。

訳…秋の声として雁を聞くはまれで、樹を紅葉させる霜気は林に十分にみちた。

随意部参考

小林和香先生書



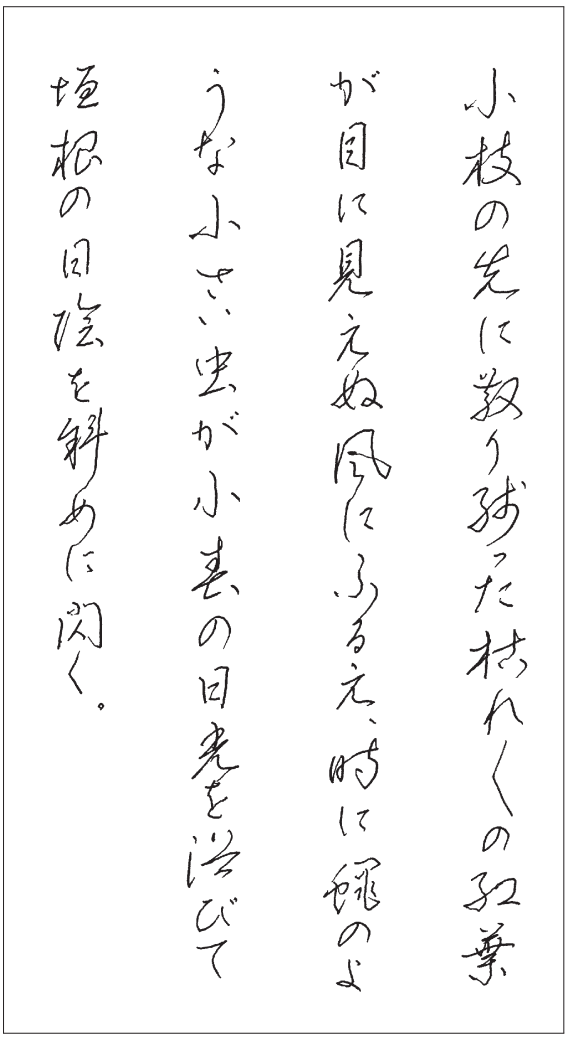
今よりは秋風寒く吹きなむをいかにかひとり長き夜を寝む（大伴家持）
いまよ利盤秋可せさむく布き那牟遠意か尓可一人な可支夜を年む

硬筆部昇試課題参考　（十一月二十二日締切）

正教授合格者　創作部門（自運作品、自由形式）で出品。

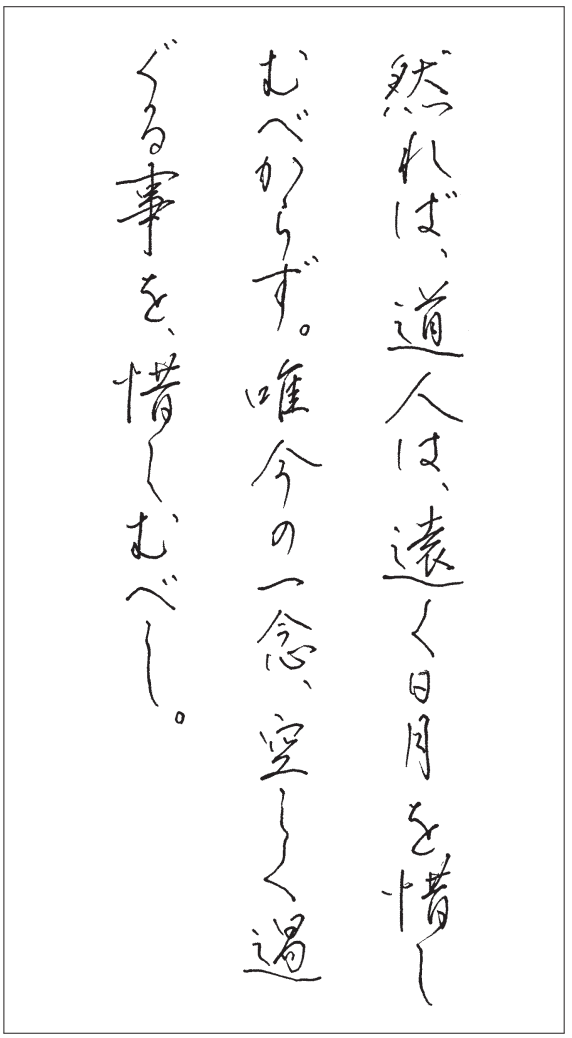
川上香蓉先生書

昇試課題１　（師範以下初段以上）



赤木典子先生書

昇試課題２　（初段格以下）



課題１（初段以上）

小枝の先に散り残った枯れくの紅葉が目に見えぬ風にふるえ、時に蠅のような小さい虫が小春の日光を浴びて垣根の日陰を斜めに閃く。

（『森の絵』寺田寅彦）

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）
(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(5) 受験料は一、〇二〇円
(6) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。（返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。）

課題１　九九〇円
課題２　五五〇円

課題２（初段格以下）

然れば、道人は、遠く日月を惜しむべからず。唯今の一念、空しく過ぐる事を、惜しむべし。

（『徒然草』吉田兼好）